

## 永壽城

らず、朝來俄然温度を減じ、之を昨日に比すれば約十度の下降するを見たり。季は既に初冬に入りて、前程益々沍寒の地に迫り。氣候の激變、寒氣の酷烈共に豫期する所なり。午前七時三十分朔風に向ひ、監軍鎮に背いて依然西北方を指し、朱由村チュユコウ坨塔舖トタポを経て號由ハオユに到る。此より北方武陵山に上れば、則ち永壽城ユンシヨウ街道にて、幅一米突、半乃至三米突行程約六里永壽に投ず。此地は永壽縣衙門の所在地にして戸數約七十に過ぎざるも、山中唯一の小市街なりとす。

地勢は平坦開濶の臺地を成し、坨塔舖の西南及東北部、約數町の地點に於て、比高五十米突内外の山と爲る、武陵山は此の臺地の西北に在りて、一支脈を東南方に、他を號由に送り、涇河の水源地を隔て、支脈と相駢ふ。

二十日午前六時五十五分、永壽を發して北方に向ひ、行くこと數町、武陵山頂に達す、其れより下坂して雪梁シニエリヤン楊彎里ヤンワンリを経て、谿谷ダイチャオコウなる底角溝テイチャオコウの南端に出づ。河あり、之に沿ふて尙ほ北に進み、十八里舖一名兎に到るや、氣温俄に三十度に昇る。

門郷モンシヤンを過ぎて大峪タイユイに達すれば、復た上坂と爲り、坡頭パトウ及北坡頭ペイパトウを超ゆれば、急に下坂して直に邠州フエンチョウに入る。行程約十里、時に午後五時五十五分とす。